

## レポート：地域で取り組む生ごみ処理

ごみ減量を考えるとき、可燃ごみの約3割を占める生ごみの減量が重要になります。

生ごみを減らす方法としては、①調理くずを減らす ②食べ残しをしない ③水切りを十分に行う ④堆肥化するというものがあります。

今回、ごみゼロ新聞調査隊は、平成24年9月から地域でボカシを使った生ごみ処理を始めた事例を紹介します。

近長下地内7戸の代表の姫田さんにお話を伺いました。

### この取り組みを始めたきっかけは？

ごみステーションの可燃ごみの中に生ごみが多く出ている状況を見て、減らしたいと思いました。

そんなとき、以前から地域でグループを作り、ボカシを使った生ごみ処理をされている方から、ごみ減量やできた堆肥が土作りによいという話を聞いて興味を引かれました。

その後、平成23年7月に市が「ボカシ作り教室」を開催したので参加しました。

実際にボカシを作り、生ごみ処理の仕方を講師から学ぶと、ボカシで生ごみ処理を行い、できた堆肥を土作り・野菜作りに活用したいと思いました。



生ごみにボカシを振りかけ、ふたを閉めます。

### 地域でどのように取り組みを始めましたか？



生ごみ・紙ごみリサイクル教室当日の様子

同じような考えをもった近所の7世帯に話をし、やってみることになりました。

まず、市環境事業所が講師を派遣してくれる生ごみ・紙ごみリサイクル教室を申し込み、みんなで勉強することにしました。



申込書1枚を提出しました

それから、市と日程調整を行い、開催日を決めました。

当日は天候にも恵まれ、みんなで楽しくボカシ作りができました。

当日のボカシ作りに必要なバケツ等道具や籾殻・米ぬか等材料は、みんなで持ち寄り、たらい等足りないものは市から借りました。